

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0868
施設名	西綾瀬りりおっこ保育園
施設所在地	足立区西綾瀬4-2-4
法人名	社会福祉法人東中川会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水と色

<テーマの設定理由>

遠足先の見学・体験場所に巨大なシャボン玉に入り体験する場があり、そこから子ども達が「シャボン玉をつくりたい!」と強い興味をこめたことから、作るのに必要な水に着目。水の性質や色を加えることでどのような変化が見られるのか変化を探究することで、身近な物への興味・感心をより深めていくことを目的にテーマ設定する。

2. 活動スケジュール

5月①シャボン玉作り。シャボン玉の大きさ比べ素材比べなど。

どんな素材でシャボン玉ができるか体験。

②実際に、さまざまな素材でシャボン玉を作ってみてどうだったか振り返り。

7月①夏まつりに向け水や色に触れ、絵の具で何か作成することを子ども達と話し合い考える。

7月②色水実験。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・水 ・モール ・ストロー ・ブロック ・積み木 ・一人用水遊びプール
・絵の具 ・筆 ・カップ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・グループに分かれ、子ども達がいろいろな素材を選択し楽しめるよう設定する。
- ・子ども達が発想豊かに自分たちでも工夫してできるような環境設定、保育者と一緒にわくわくできるような雰囲気を作り、取り組む。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

遠足で体験したことをきっかけに、「シャボン玉を作りたい」の子ども達の声から「どうやってつくるの?」「何と何を混ぜるの?」「シャボン玉をテープの芯でできるかな?」「私はストロー」など子ども達が身近にある玩具や素材を使い始め、どうしたらシャボン玉がたくさんできるか、大きいのができるか友だちや保育者に聞いたり確認したりしながら挑戦していた。「できた」「これはできない」といろいろ試した結果、クラスに戻り、みんなで結果を話しまとめ、できるものに共通点を見つけていた。保育者も一緒に経験することで、子ども達からの「こうするといいよ」「先生、やっpegらん!」など自信に満ちた表情も見られた。

シャボン玉の経験から、水に触れる機会も増え、夏まつり前に、テーマを子ども達と考え、絵の具や水を混ぜて子ども達の「ここを塗りたい」の声を優先に作成。

フォトスポットとして完成したものをみて、夏まつりは「ここぼくがぬったんだよ!」などと保護者に伝えていた。

色水実験は、「何を混ぜようかな」「これとこれは・・・」「〇〇色になった!」などとグループに分かれ興味を示し、色の変化を楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

遠足をきっかけに、シャボン玉に興味を持ち、そこから水や色に関心を持つ子ども達の姿が見られた。さまざまな物的環境を設定することで、子ども達が自分たちで考え行動する姿やそれを声に出して協力し合う様子、ワクワク取り組んでいる姿が見られた。

また絵の具での夏まつりのフォトスポットも子ども達が積極的に意見を出している姿に成長を感じた。子ども達が水、石鹼で夏ならではの遊びに展開できる機械や素材、環境を設定することも考えられたので、工夫して行きたい。子ども達と一緒に考え、子ども達の声聞くことで一緒に探究し、わくわくすることが増えたように感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0868
施設名	西綾瀬りりおっこ保育園
施設所在地	足立区西綾瀬4-2-4
法人名	社会福祉法人東中川会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光と水と影

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

夏の色水遊びに興味、関心を強く持っており、そこから更なる遊びの発展を期待して設定した。また、光と水のテーマから、光の写り方等に興味を示した為。

2. 活動スケジュール

- ・ヒカリテーブルのテーブル購入。
- ・イロイロモザイク（アクリル）などを購入。
- ・グループ分け ・2歳児クラスと合同活動
- ・ひなまつり制作（カラーセロハン使用）
- ・2階テラスにて2歳児クラスと合同活動。
- ・懐中電灯購入。 ・カラーセロハン購入。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ヒカリテーブル ・イロイロモザイク (アクリル) ・カラフルキューブ
- ・プラカップ ・水 ・アクリルケース ・カラーセロハン ・カラープラバン
- ・黒の布 ・黒いシャツ ・懐中電灯 ・セロテープ ・ペットボトル

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ヒカリテーブルの上にカラーのプラバンを置いたり、アクリルケースを水槽に見立て水を入れ、その中にイロイロモザイクやキューブをいれていた。
- ・色の重なりを試したり、コップ、ペットボトルなども使用しながら実験を楽しんでいた。
- ・制作したひなまつりの飾りを、太陽にかざし、テラスに写るか実験した。
- ・懐中電灯を2～3人でひとつ使用し、子ども達が考えながら使用した。
- ・カラーセロハンをテーブルに置き、子ども達がそれぞれ自由に使用する。
- ・テラスの床以外にも、布やシャツ、ガラスなどのいろいろな場所に写るか試した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・ヒカリテーブルに驚いたりカラーのプラバンを光に当てて色の移り変わり等を楽しんでいた。「重ねたら〇〇の色になったよ」「水を入れたらどうかな」「のぞいてみて」「手をいれてみたい、入れたら手に色がついた」など歓声もあがっていた。

保育者も始めて見るヒカリテーブルに子ども達と同じように「わあ！」と歓声上がる。水中に手を入れたことで色の変化などに気づいている子ども、手に色がついたように見える子どもがいた。見る角度によって、「ここから見ると〇〇色だけど、こっちから見ると色がついてないね」などの気づきも見られた。

- ・色が重なった際は、「赤と青で紫になった」などの変化に気づき、子ども達や保育者に喜んで話していた。また、光を当てる角度を変えることにより、影の大きさや形の変化にも気づいている子どももいた。

- ・最初は、セロハンを懐中電灯で照らしているだけだったが、そのうち懐中電灯にセロハンを貼り、色をつけることに気づいた子がいた。また、セロハンを複数枚重ねること、色の変化を楽しんだり、保育者が魚の形にセロハンを切ると光照らし、「水族館みたい」と話す姿がみられた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・水に色が写ることで、「水族館みたい」と「水族館をやってみたい」という声子ども達から出てきた。そのような声を聞き、子ども達で話し合ったり、どのような水族館、魚を作りたいかなど膨らませてわくわくする機会をか継続出来たらよかった。重なった色の変化に気づいたり、見る角度で色がついたり、気づきがさまざま見られた。
- ・作品を太陽にかざすことで色が写ることの楽しさ、不思議さを体験出来るよう考えていた。保育者の黒の洋服に子ども達から進んで写そうとしたり、形を合わせていろいろな形の影を作ったりなど、子ども達でも考えながら活動を発展させ楽しんで笑顔が見られた。
- ・保育者の真似をして影遊びをしたり、セロハンを貼り付けたりしていたが、影を大きくしたり小さくしたり色の重なりを楽しんだり、子ども達同士で考えて光や色を楽しんでいた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0868
施設名	西綾瀬りりおっこ保育園
施設所在地	足立区西綾瀬4-2-4
法人名	社会福祉法人東中川会

1. 活動のテーマ

音

<テーマの設定理由>

様々なものに興味があり「あれやってみたい」「こうしてみたい」と意見が飛び交うクラスで、昨年度も5歳児クラスが太鼓教室をしているのを楽しみにしていた為。

2. 活動スケジュール

通年週一回 毎週金曜日

初期 太鼓に素手で触れてみる。

様々な技法で打ってみて感触や音の違いを楽しむ。

夏頃 決まったリズムに合わせてみんなで叩く事を楽しむ。

秋～冬 レベルを上げて難しいリズムをみんなで合わせて叩く。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

環境設定

太鼓を叩く際には、バチが当たらないよう広い場所を用意する。（ランチルーム、保育室を広く広げる等）

太鼓だけでなく、練習用の台を購入し、より楽しめるよう設定した。

4. 探究活動の実践<活動の内容>



太鼓教室をはじめた頃は、興味が薄かったり、集中力が続かない様子であった。
練習用の台を購入した事で待つ時間が減り、叩くことを楽しめる時間が増えた。
夏祭りで年長組がみんなの前で発表した後から「たのしい」「もっとかっこよく叩きたい」と意欲的な発言が見られた。どうしたらいい音になるのか、みんなで揃えるにはどうしたら良いのか話し合う姿も多くみられた。

最初の頃は、興味が薄かった子も回数を重ねていくうちに楽しさに気づき「年長組として」「かっこいいところを見せたい」という気持ちから、リズムをとる事が苦手な子も意欲的に取り組む姿勢が感じられた。

5. 振り返り＜振り返りによって得た先生の気づき＞

最初、素手で叩いてみて「面白い」事に気づき、バチを持って、色々なところを叩いて音の違いに気付いていった。回数を重ねていくうちに、「かっこいいところを見せたい」「みんなで揃えたい」と意識が変わっていく様子がみられた。年長組の後半になると、「どうしたらできるか」探求し、友達同士意見を出し合ったり話しあう姿がみられた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0868
施設名	西綾瀬りりおっこ保育園
施設所在地	足立区西綾瀬4-2-4
法人名	社会福祉法人東中川会

1. 活動のテーマ

体の動かし方

<テーマの設定理由>

子ども達が園庭や公園遊びをする中で、追いかっこやサッカーといった特定の遊びに内容に偏りが見られたため、体を使った遊びの種類を多く知って欲しいと感じた。
また、子ども達が探索活動を行う際に、よじ登る事や這って移動するといった動きを求められるような自然や環境が減少しているように感じた。そのため、様々な体の動かし方を身に着ける事で、遊びの幅や探索活動の方法を広げる事ができると考えた。

2. 活動スケジュール

各クラス通年週1回実施

3歳児クラス：走る、投げるといった基本的な動作

4歳児クラス：うつ伏せから起き上がって走る、サーキット等の複合的・連続的な動作

5歳児クラス：道具を使った運動や、チームでの運動

※4歳・5歳児のクラスの内容は前年クラスの内容を発展させた活動も含めて行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

専門講師による教室を実施する事で、正しい姿勢や身体の動かし方を知る事ができるようにした。体育教室で行った事を外遊びの時間などにやって見る事で、教室の内容を振り返ったり、発展させられるようにした。

雨の日でも十分に体を動かせるように、室内でも広く場所を確保するようにした。

4. 探究活動の実践<活動の内容>

様々な身体活動を通して、体の動かし方を楽しみながら学んだ。

外部の専門講師を招いて毎週体育教室を実施した。

マットや鉄棒などの器具を使いながら職員や講師のサポートのもと、運動やゲームを行い日常生活では行わない動きを行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

楽しみながら体を動かしていた。送迎の際に「今日は体育教室だったんだ」と嬉しそうに活動内容やできた事を保護者に伝える姿が見られた。

難しい動きをする時には、職員や講師に「手伝って」「支えていて」とサポートを求め、できたときには「できたよ!」と見せに来てくれる姿が見られた。教室の時間だけでなく、日常保育の中でも教室で行った動きを見せに来てくれる事も多くあった。



5. 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

体の動かし方という運動機能の発達を見込んでの活動であったが、当初の想定以上に子ども達の心が発達する姿が見られた。例えば、縄跳びを上手に飛ばないと悔しがっている子に対して、子ども達同士でコツを教え合ったり、できたときに褒め合ったり競い合う姿が見られた。上手くできた子は、できた事に楽しさと達成感を感じ、成功を確かめるように繰り返して行っていた。こうした姿から「やってみよう」「できた」「楽しい」「もっとやりたい」という、新しい事に楽しく挑戦する気持ちが育まれていると感じた。